



街ではクリスマスソングが流れ始め、クリスマスムードに染まる12月。「今年のクリスマスプレゼントは何にしようかな?」と考えるのも、親の楽しみでもありますね。子どもが欲しがるものは、本当に子どもにとって良いものか…と考えさせられるものもあります。私は、これに関して苦い思い出があります。

子どもがサンタさんに「〇〇をください」とようやく覚えたたどたどしい字で手紙を書き、「母さんがポストに入れておくね」と預かっていました。(この手紙は、何年分も取ってあります)。そして、私がサンタさん代行となって、プレゼントを買いにいっわけです。しかし、このおもちゃは子どもにとって良いものだろうか…と悩む年もあり、その年は私の判断で「野球のバット」に代えたのです。「野球したいって言っていたし、いいか!」と。クリスマスイブの夜は、ワクワクしながら布団にもぐる息子。そして息子が寝入ったことを確認し、慎重に枕元にプレゼントを置きました。(サンタさんも大変なものです)。そして翌朝、飛び起きてすぐに、枕元にあった細長い袋を見て一瞬固まり、息子は泣き崩れました。あ〜…。家族中が暗くなったクリスマスの思い出です。

おもちゃにも、「食事」と「おやつ」があると考えれば、クリスマスの朝は大好きな「おやつ」で心を躍らせてあげたいと今は思います。文責 奥田美由紀

<11月の広場より>

“子どもが感じていること”を見つめる



水道に置いてあるポンプ式の液体石鹸を手のひらに出したくて、何分でも集中して取り組んでいたHちゃん(1歳8か月)。水を少量水道から出してあげると、小さな手のひらを上に向け、水を受けています。子どもにとっては、すべて遊びです。私はその顔をじっと見て、心の耳を澄まして、Hちゃんは今何を感じ、何を味わい、何を考えているのか感じ取ろうとしました。このように「子どもを理解したい」という気持ちから保育はスタートすることを学生にも伝えていきます。Hちゃんが感じていることに寄り添うように共感し、その体験からHちゃんが何を学んでいるかを読み取ります。液体ポンプの仕組みでしょうか、水の性質でしょうか、一緒に感じてもらうと嬉しいなということでしょうか、子どもってすごいですね。自分から体験しながら、知識や社会性を身につけています。こんな意味のある体験をやめさせるなんてもったいない!子どもが始めたことにはすべて意味があるのです。(体験をさせたい方は、着替えをお忘れなく!)

お母さんも「ここではさせてあげられるからいい」と言って、他のお母さんとテーブルについて話をしながら見守ってくれていました。ということは、他ではさせてあげられないのですね。「人に迷惑を掛ける」「親は何をしつけているのかと見られる」等、様々な気兼ねから、子どもがやる前に止めてしまうことが多いですね。

子どもは自発的に行動し、その体験から「やったらどうなるか」学びます。しかし、やりたい放題させておくのではなく、その場に一緒に居る大人は、どうしたらどうなったか、どうすればよかったか、一緒に感じ、一緒に考えながら寄り添っていく大切な存在です。

家庭では、忙しすぎてなかなか出来ないかもしれませんが、子どもの心の動きに寄り添ってみると、子どもの心が見えてくるようですよ。

今、Sちゃんが楽しいこと（発達に合った遊び）

その1) いすの陰で「いないいないばあ」を楽しむSちゃん（10か月）。何度も繰り返し、ケタケタ笑っています。お母さんはお友達と、座ってお茶を飲むことが出来たひとときでした。本学の卒業生でもあるお母さんは、学生たちにもアドバイスしていただきます。



その2) 折り紙ケースに貼ってあるかわいいマークに興味を持ったSちゃんは、指先を使って器用に剥がし始めました。お母さんは「せっかく学生さんが作ってくれたのに…」と気を遣って下さいましたが、子どもが興味を持ってそれを遊び始めたら、学生も大いに勉強になります。1歳児が取りたくなるような楽しいものをたくさん貼っておいてあげると集中して遊べますね。



その3) 引き出しの中のものを出して、その感触（くしゃくしゃ）を楽しんでいたのので、私はティッシュの箱を渡してみました。すると、目を輝かせて中身を出し始めました。ご実家では、おばあさんが、要らないハンカチをつなげて箱から出して遊べるように手作りおもちゃを作ってくくださったとか。すてきなおばあちゃん！こういうことをたくさん用意してあげて、意欲を体験につなげてあげたいですね。ティッシュは、後からたたんで使えばOK！高価なおもちゃよりも遊べて、考えてみれば安いおもちゃですよ。子どもは満足すればそのうちしなくなるので心配ありません。



突然のハプニング！

～相手の気持ちを考えているんだなあ～

いつも1番か2番目に広場にきてくれるAくん（3歳8か月）。いつものようにボールを次々に出して蹴って遊んでいました。1番に来たときは他に誰も居ないので、他の子どもに当たることは無いのですが、今日はKくんも早く来ていました。そして、蹴ったボールがKくんの顔に当たってしまいました！柔らかいボールということもあってか、Kくんはすぐに切り替えて遊びを続けましたが、ぶつけてしまったAくんの方がショックだったことがその表情から分かりました。隣の部屋をうろうろ歩いてしょんぼりしたり、ちょっとこちらをのぞいたり、あっかんべーをしたりしていました。ちらちらとKくんを見たりして、Aくんの気持ちが痛いほど伝わってきます。お母さんも痛いほど分かっていたらっしゃいました。しかし、双方のお母さんが「謝りなさい」と強制することなく、子どもの感情の動きを見守り、整理されて行動に移すまで見守って下さいました。

子どもも感情の整理をしたり、勇気を持って謝ろうと決意したり、心の中は葛藤しています。そこを見守り、そっと支える素敵なお母さん達でした。

Kくん（1歳11か月）とMくん（2歳11か月）が人気のショベルカーをめぐってトラブルになりました。Kくんのお母さんは「いつも取る方なので、取られる経験も大切。こういう経験も必要だと思うので、いいんですよ」とMくんのお母さんに伝えていました。Mくんのお母さんも「うちもいつも取る方なんです」と、その時の母親の気持ちを共感し合っていました。

お互いが「良い経験」と言え、気兼ねなく「子どもの育ち」を見守れる広場になりつつあって嬉しく思います。家庭では経験できない体験を「お互いさま」という気持ちで広場の仲間はずしてくれませう。

友達を意識した遊びへ移る3歳頃



Mくん(2歳11か月)とKくん(2歳6か月)は、どちらもショベルカーで遊びたいようで、お互いに隙を見てさっと乗って逃げていました。それを繰り返していますが、どちらも怒ったり泣いたりしません。そのうちKくんは、木の汽車に乗り替えてMくんを追いかけ始めました。二人とも、友達を意識して遊んでいるようです。「自分が」と自分を主張していた段階から「友達と一緒に」を楽しめるようになってくる年齢になってきたのですね。

その後、キーボードに向かって走り、車を降りると、テンポの良い音楽に合わせて両手で鍵盤を打って鳴らして遊び始めました。音楽が止まるとめちやくちやに弾き、また音楽が鳴ると、それに合わせて二人の手が同時に同じように動き、顔を合わせて楽しそうに笑い合っていました。



二人の後ろには、仲良くショベルカーと汽車が並んで停めてありますね。

お母さんがしっかりと子どもの要求に応え、心を満たしてあげると、友達に譲ったり、やさしくしてあげたりできるようになります。やさしい子になって欲しいと願うなら、子どもにやさしくしてあげるのが一番です。

白菜餃子を作って食べました！

Sちゃん(1歳11か月)は、白菜を一枚ずつむいています。すると小さな虫が出てきました！「おいしい白菜だから虫さんも食べに来ただね～」と市川先生が言うとSちゃんも「むし」と。そして、そっと外に逃がしてあげました。すべての工程で、先生の話をもじって聞いて、自分の言葉(単語)で反復し納得して進めています。どれも主体的でSちゃんの意志を感じ、いつも感心します。



次に、木下先生が「白菜を小さくちぎってね」と説明しています。Nちゃん(1歳8か月)も、相手の話をしっかり聞いて、考えています。その顔は、素敵だなと思っていつも見ていました。



続いて、フードプロセッサで白菜を細かくします。Hくん(3歳8か月)がスイッチオン！ものすごい音がします。Sくん(1歳)は驚き、警戒態勢に入りました。(掃除機の音にも驚く年頃ですよ)。



細くなった白菜と挽肉、醤油、だしの素を入れて、よく捏ねます。この感触を「気持ちが悪い」と嫌がるものですが、参加したHくん、Sちゃん、Yくんは慣れたもの！あっという間に混ぜてくれました。



いよいよ、餃子の皮に包みます。Sくん(1歳5か月)は料理のすべての工程を体験しました。しかも意欲的に！飽きずに何個も何個も包みました。皮に水をつけるという意味がまだよく分からない子もいました。皮を閉じて、具が見えなくなったので、一生懸命開こうとした子もいました。見えなくなるのは、不思議のようです。



そして、焼きあがった餃子をみんなでいただきました。人生初の餃子という子もいましたが、「もっと、もっと」と要求しながら、食べてくれました。

素材の味を感じる、やさしい餃子でした。



食物栄養専攻の教員も時々参加します。お子さんの食に関する悩みや疑問など、お気軽にお話ください。

自分の力で！

Sくん（1歳）は「あー」と力強い声を出して滑り台を登っていきました。「ぼく、一人で登るぞ！」とでも言っているように聞こえます。足をぐいっと踏ん張って力強く登り、途中で足を上げて、すーっと腹ばいで滑り降りることを繰り返していました。お母さんは、Sくんの意思を大切にして、万が一のために配慮する程度の援助で見守り、いつも話しかけています。その姿勢にいつも感心します。Sくんは、決して受身ではなく、その行動に意思を感じます。



Mくんの世界

Mくん（3歳4か月）の大好きな車と汽車。丁度誰も使っていなかったの、全部を使って遊ぶことが出来ました。カーキャリアに車を積んで横からニコニコして覗き込んでいる顔が素敵過ぎて思わずパチリ！Mくんは、イメージの世界に自分も入って楽しんでいるのかな？こういう時間をたっぷり味わわせてあげたいと思っています。



やさしさって、あったかい



今日は、大好きな掃除機をずりずりと持ち出し、学生がコンセントに挿してあげると掃除機が急に唸りだしました。同時にスクリーンのボタンを押したら大きな音を出してスクリーンが降りてきて、驚いて立ち上がったら頭をホワイトボードに強く打ち、驚きと痛さ、すべてが一度に重なり、Aくん（2歳6か月）は大声で泣いてしまいました。一緒にいた学生が抱いて受け止めていたところに、もう一人の学生が来て「Aくん、大丈夫？痛かったね」とAくんの花の折り紙を渡してあげると、泣きながらもその花を自分で頭の痛いところに当てて貼りました。

人の優しさは、嬉しいものですよね。私が冷えピタを貼ってあげるより、学生が作ってくれた花の折り紙の方が、痛みを和らげてくれそうです。

色々なことがあるから、広場はいいですね。何かが起きたとき、人の優しさに触れ、優しい人間が育つのでしょうか。叱ったり、怒ったりしなくても「そういうことはしない方が良い」と感じられる人間に育ってくれることでしょうか。



ペットボトルが今のお気に入り！



お母さんと麦茶を飲んでくつろいでいたところ、Yくん（1歳5か月）も手を伸ばしてきました。Yくんも飲みたいのかな？と思って麦茶をあげましたが、麦茶よりもペットボトルに興味があることをお母さんが教えてくれました。家ではおじいちゃんがペットボトルをつぶしているのを見て興味を持ち、遊んでいるそうです。

そこで、空いたペットボトルを渡してみると、蓋を上手に回して閉めたり開けたりして、飲む真似もして遊んでいます。生活そのものが、子どもにとっては遊びですね。生活の中で子どもの興味を遊びに変えてみると良いですね。

他の子の遊びが刺激になって

Kくん（2歳3か月）は、今日は自転車に興味を示しました。いつもAくん（3歳8か月）が格好良くぐるぐる乗っているのを見ていて魅力的に感じていたのでしょうか。

お母さんの話によると、Aくんは始めすんなり貸せなかったけれど、何回か繰り返すうちに気持ちよく譲ってくれたということでした。私は、この譲ってくれた場面を見ていました。あまりにも自然で驚きました。この場面に至るまでも、お母さん同士、子どもを急かさずに気持ちが動くまで待ってあげています。Kくんは、憧れのAくんに譲ってもらって嬉しかったでしょうね。Kくんが自転車に乗ると、足が床にとどかなかつたけれど、お母さんに押しもらって部屋を周って満足気な表情でした。自分が受けた優しさは、心に積もり、きっと誰かにまた届けられることでしょう。

年上の子ども達の遊びや行動を、小さい子ども達はしっかり見て感じていますね。（大人のしていることも、子どもはしっかり見ています・・・！）

分かっているんだね

最近のYちゃん（1歳11か月）は、お母さんから離れ、行動範囲が広がってきました。広場でもリラックスして過せるようになってくれ、嬉しく思っています。今日は、滑り台を逆から昇り始めると、上から滑ろうとしていたSちゃん（10か月）と、ピタッと目が合いました。Yちゃんは、じっとして考えているようでした。ずるずると滑ってくるSちゃんが自分より小さいことは分かっています。ずっと身体を横にして、その横をSちゃんが滑っていきました。

子どもも分かって考えているのですね。Yちゃん、Hちゃんに譲ってくれてありがとう。Hちゃんのお母さんにも「ありがとう」と言われて嬉しかったね。



アイロンビーズが床一面に・・・

最近の広場では、細かくてカラフルなアイロンビーズをケースから出して遊ぶことが、90分の中で何回もあります。その度に「あ～～～…」という大人たちの声が聞こえてきます。家庭でこのようなことになったら、ショックのあまりしばらく動けないですよ。しかし、ここには大人がたくさん居ます。安心してください。毎回どうにかなるものです。



また、小さい子が口に入れてしまうのも心配ですから、このような細かいものは、保育所などでは置いていないと思います。しかし、広場では、たくさんの大人の目があるため、自分の子ども以外でも近くの子どものを見ていただき、声を掛けてくださいます。大家族で生活している方は日常だと思いますが、



人の目がたくさんあると、少し余裕を持って子どもを見ていられますね。しかし、日中、一人で育児をされている方の緊張感は大きく、ピリピリしてしまうのもよく分かります。命にかかわることですから。

Sちゃん（1歳9か月）も両手ですくって散らしています。Nちゃん（1歳8か月）もニコニコしながら、何度も散らしています。まるで開放感を味わっているようです。砂遊びや水遊びも同じような意味があるでしょうね。



子ども達が十分満足してその場を離れたら、大人たちでのんびりアイロンビーズを集めましょうかね。



鼻のかみ方



気温や湿度が不安定な今日この頃。子ども達も体調がすっきりしない日が続くようです。本人は元気ですが、すーっと鼻水が流れていることがあります。本人は全く気にしていなく、遊びに夢中ですが、お母さんが時々拭いてあげています。小さい頃は中耳炎になりやすいので、お母さんも注意してみてくださいませぬ。

ところで、お子さんは、鼻をかめますか？

実は、幼稚園の年長児でも時々鼻をかめない子と出会います。親にしてもらうように、片手で自分の鼻をかむ子もいました。教えてあげないとできるようにはなりません。

子どもが小さいうちは、親が片手でティッシュを持ち、子どもの鼻に当ててやってあげますが、自分でできるようになったら、向かい合って教えてあげましょう。まず、ティッシュのたたみ方から丁寧に教えます。半分に折って両手で鼻に当てます。そして、片方の鼻の穴を押さえて、「フン」として拭き取る。そのティッシュを半分にたたんで、また両手で鼻に当てて反対側の鼻の穴を押さえて「フン」とかんで拭き取る。そのティッシュをたたんでゴミ箱に捨てる。鼻をかんだ後は、手を洗う。これを丁寧に一緒にやってみます。

何事も、言葉で説明しただけでは、子どもは分かりません。

一人ずつ丁寧に見せてあげたり、やってあげたりします。

雪遊びもしましょう！



雪の季節がやってきます。体調が良ければ、広場に荷物を置いて、外に遊びに行きませんか？子どもにとって雪は魅力的ですよね。たっぷり遊んだ後は、暖かい洋服に着替えて、温かい飲み物でも飲んで、温まりましょう。それぞれ、お子さんに合わせて、着替えや替えの靴、飲み物（冷蔵庫や電子レンジをご自由にお使いください）をご持参ください。ポットにお湯もあります。お使いください。勿論、室内でゆっくり過ごすのもOKです。

<12月の予定>

1日（火）

4日（金）

8日（火）

11日（金）

15日（火）

18日（金）

22日（火）

<1月の予定>

8日（金）

12日（火）

15日（金）

19日（火）

22日（金）

26日（火）

29日（金）

※年末年始はお休みします

親と子の広場のご案内

	小さな“さくらっこ”	“さくらっこ”
日時	火・金曜日 10:30 ~ 12:00	土曜日 10:00~12:30
場所	ミリアム館 1階保育室	ミリアム館 1階保育室
年齢	0歳~就園前	0歳~小学生
参加料	無料	500円（親子一組）（各回） 兄弟（3歳以上）はプラス300円
登録料 （保険料）	子ども一人当たり 300円（年1回） ※おうちの方と一緒に参加してください	
持ち物	特にありません ※日常、お出掛けの時に持参する飲み物や着替えなど、 必要と思われるものを各自でご用意ください	
担当	桜の聖母短期大学 淋 光江（土） 奥田美由紀（火）（金） こども保育コース教員 ※こども保育コースの学生も勉強のため参加します。	